

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (北海道)	良く なっている	観光名所（従業員）	来客数の動き	・25日までの実績だが、利用乗降客数が前年比約120%となっており、前年を上回る傾向が続いている。また、前年12月以降、単月での利用乗降客数が開業以来の最高人数を記録しており、3月も過去最高になる見込みである。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・3月中旬以降、ホテル、飲食関連、コンビニなどに北海道新幹線の開業に伴うプラスの効果が表れている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・天候が比較的安定し、季節なりの気温となっていることで、婦人服の動きが回復してきている。来客数の落ち込みも底を打ったようだ。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価がアップしている。節約志向の客も多くみられるが、高単価で品質の良い商材を購入する客も増えている。例えば、1800円もするようなシャンプーなどが売れている。
		スーパー（従業員）	来客数の動き	・北海道新幹線の開業イベントの効果で、鉄道利用客だけでなく、車を利用する観光客も増加しており、街全体が活気付いている。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・パンや総菜などのすぐ食べることのできる商材が売れている。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・3月の売上は前年比107%であった。近所で引っ越しが多いためか、食品関連の売上が前年比110%と好調であり、売上をけん引した。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・中国、台湾、韓国などの外国人観光客の利用が堅調である。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・来客数が増加傾向にある。特に海外旅行の需要が回復してきている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・例年、3月は売上の落ち込む時期であり、今年の売上も3か月前と比較すると約13%落ち込んでいる。しかしながら、3月26日に開業した北海道新幹線の影響は大きく、26～27日の2日間の売上は前年実績の約1.6倍となったことから、やや良くなっている。
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・雪解けを迎えて公共工事が増えてきており、それに伴い輸送量も増えてきている。		
住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへ来訪する客の購入意欲が高まっており、マンションの購入を決断するまでに要する時間が短くなってきている。		
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	それ以外	・販売量、客単価とも下がり気味である。また、百貨店の撤退が発表されたことを受けて、地元から百貨店がなくなるこの影響を心配する声が多く聞かれる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の反応はこれまでと変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・3月上旬は来街者の偏りがみられ、一部の店舗では来客数が増加したものの、そのほかの多くの店舗では来客数が減少した。中旬以降は道内他都市からのバス旅行客も訪れるようになってきているが、月全体で見ると来街者が減少している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・3月は歓送迎会の時期であるため、例年、酒の需要が増える時期であるが、今年は今一つである。客先からもそうした話が聞こえてくる。
		百貨店（担当者）	来客数の動き	・北海道新幹線の開業効果に期待したものの、想定したほどの伸びはみられなかった。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・3月中旬は近隣の商業施設の販促施策による好影響がみられたが、販促施策の終了後は急激に消費が冷え込み、来客数、買上客数に大きな影響が生じている。天候が春本番を迎えるまでにしばらく時間がかかりそうなこともあり、春物衣料のマーケットも盛り上がり欠ける状況が続いている。
		スーパー（従業員）	来客数の動き	・商品単価の上昇が落ち着き、客1人当たりの買上点数が前年比100%を若干オーバーしている。客単価も前年を2%前後上回って推移しているが、来客数がやや低下している。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・週末や広告日の売上が減少している。量販店の価格が以前よりも安くなっていることから、量販店の影響を受けているとみられる。

衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・道南では北海道新幹線の開業などでにぎわいがみられるが、道東方面では一向に景気が良くなるような要因が見当たらない。高速道路の延長に伴う効果を期待しているが、金利の引下げが家庭にどのような影響を与えるのかがみえてこない。	
衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・例年、この時期は入学、就職などでスーツが稼働する時期だが、客1人当たりのスーツの購入点数が1.3着と前年の1.7着と比べて大きく落ち込んでいる。	
家電量販店(店員)	来客数の動き	・3月の来客数、売上は前年と比べて微増しているものの、一人立ちセットは必要最低限の商材以外は買わない傾向がみられる。白物家電は大型冷蔵庫やドラム式洗濯機などがよく売れている。	
乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・来客数に大きな変化はみられないが、購入決定までの時間が長引くようになってきている。中断する事例も多く、消費者のマインドが高まってこない状況にある。	
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・来客数、販売量とも、足踏み状態が続いており、上向き傾向になってこない。	
乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・3月の決算時期ということもあり、販売量は伸びているが、北海道特有の春先需要であり、ここ3か月の販売量を平均すると良くも悪くもない状況である。	
その他専門店 [ガソリンスタンド](経営者)	販売量の動き	・石油製品価格が安定しているため、販売量も堅調に推移している。	
高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・3月前半は来客数が少なく、売上は前年を下回っていたが、後半は3連休、北海道新幹線の開業、春休みと続き、北海道新幹線の開業イベントの効果などもあり、月全体での売上は前年から6%増となった。	
高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・3月は思いの外悪くなかった。高単価のメニューを値下げした際、何千850円のような価格帯にしたところ、値ごろ感が出たのか、販売量が増加した。知人の店もランチを中心に来客数が増えて、前年を超える勢いだと聞いた。出入りのタクシー業者からも前年末から好景気を予感させる声が出てきている。	
旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・例年、3～4月にかけては観光シーズンの谷間に当たり、航空機の利用客も少ないが、前年と比べて天候が安定し雪解けも早いことから、春休みの需要が伸びている。	
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・例年、冬から春への季節の変わり目は、旅行や転勤、卒業旅行などで若年層のにぎわう時期であるが、今年はあまり旅行に出かけていない。北海道新幹線開業後の旅行需要も思いの外、盛り上がりなかった。	
タクシー運転手	来客数の動き	・3月は前年と比べてタクシー1台当たりの売上が5%ほどプラスになった。ただし、乗務員不足の影響で会社としての売上は3%のプラスにとどまった。	
タクシー運転手	販売量の動き	・前年比並びに前月比の数値がほぼ横ばいでの推移となっている。	
タクシー運転手	販売量の動き	・天候のせい客足が鈍い。消費自体も縮小しているようだ。	
通信会社(社員)	販売量の動き	・販売実績をみると、各社とも計画を下回った実績しか残すことができていない。消費者の所得向上がみられないなかで、来年に予定されている消費税増税を控えて購買意欲が低下している。	
美容室(経営者)	お客様の様子	・客の来店周期にあまり変化がなく、売上もそれに連動してほぼ同じような数字で推移している。	
美容室(経営者)	販売量の動き	・店販商材は多少動きが良いが、全体の売上はここ3か月ほとんど変わらない。	
美容室(経営者)	来客数の動き	・前年と比べて来客数や売上があまり良くない。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・今年の冬は少雪で雪解けも早かったため、期待感があったが、なかなか客足が戻らず、売上が低迷している。例年、3月後半は繁忙期となるが、今年は盛り上がり欠けている。歓送迎会などの予約も低調で、飲食店も苦戦を強いられている。
	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・春物のコートの売上が前年の8割台にとどまるなど、春物商材の動きがあまり良くなく、売上は前年の95%程度となっている。2月末に大雪が降り、3月に入っても朝晩の冷え込みが厳しいなど、なかなか春めいてこないことが要因の1つとなっている。

	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・店舗の改装工事に伴い、営業面積が縮小しているなか、来客数が前年から5%もダウンしている。特に外国人観光客が急激に減少している。積雪が少なく、春の訪れが早いのに反して、客の春物購入の動きはゆっくりとしている。また、催事の動員も苦戦している。3月中旬以降の顧客施策に対する反応は良好であるが、前年並みの売上を確保するのが精一杯であった。	
	百貨店（役員）	お客様の様子	・来客数が減っていることに加えて、客単価も低下している。また、本来売れなければならない衣料品の動きも良くない。	
	スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量が前年比87%と不振であり、2月から更に落ち込んでいる。	
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合しているショッピングモールのチラシ回数が増えている。また、地元百貨店の閉店が決定したことも気がかりである。	
	スーパー（企画担当）	販売量の動き	・相変わらず買上点数の減少傾向に歯止めがかからず、客単価が伸び悩んでいる。商品単価が上昇していることで、客の消費行動が消極的になっている。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の回復が遅れている。特に女性客の動きが鈍いことから、飲料や菓子などではドラッグストアやディスカウントストアに客が流出していることがうかがえる。所得が増加してこないなか、主要客層の節約志向がより強まっている。	
	衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・イベント以外での来客数が少ない。	
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・最盛期に入っても販売量がなかなか上向いてこない。	
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・販売台数が前年よりも減っている。	
	自動車備品販売店（店長）	販売量の動き	・来客数は前年並みであるが、夏タイヤの販売本数が冬タイヤと同様に前年の80%となっている。一方、洗車用品は暖冬の影響により、前年よりも10日程度早く売れ出している。	
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・景気が上向きになりかかったが、3月に入って小休止している。販促に向けたチラシも効果が出てくるまで時間が掛かりそうだ。	
	高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・客が消費を抑えている。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・オーダーや問い合わせの件数は前年並みで推移しているが、今年に入ってから前年よりも件数が少なくなっているように感じる。	
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・1月のキャッシュバック付き端末の販売終了の反動がいまだに消えず、春商戦にもかかわらず、札幌圏の量販店や大型店ですら前年と比べて販売量が減少している。また、月末に発売される新型端末も過去最低の予約数となっている。	
	住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・株式市場の動きが良くないため、消費は控えめになっている。また、建築コストなどが高止まりしたままであるため、ムードも盛り上がってこない状況にある。	
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・季節的な事情があるにしても、前年と比べても体感で分かるくらい景気が悪くなっている。	
	一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・観光地のため、就職や進学に伴う需要には縁がない。一方、卒業旅行の観光客は、少子化の影響なのか前年と比べて15%程度減っている。	
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・北洋さけます漁が中止されたことの影響が大きく、沿岸部の店舗を中心に売上、来客数の減少が止まらない。また、前年は大雪というプラス要因もあったが、今年は雪が少ないこともあり、より安いスーパーやディスカウントストアに客が流れている。	
	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・このところ外国人観光客が急に減少している。	
	タクシー運転手	販売量の動き	・前年比でのマイナス幅が拡大している。	
企業動向関連	良く なっている やや良く なっている	-	-	
(北海道)	変わらない	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、受注販売量に変化がみられない。

	建設業（従業員）	取引先の様子	・前年末に改正耐震改修促進法による耐震診断期限が3年延期されたことにより、耐震改修工事の着手を延期する動きが多くみられる。一方、低金利と消費税増税の延期への期待から、建設投資を前倒しする動きもみられる。	
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・ビート糖、でん粉などの農産品の本州向け輸送が順調である。燃料油が低価格で安定していることで、一部の荷主より輸送料金の値下げ要請を受けており、4月からの実施を予定している案件も発生している。	
	輸送業（支店長）	取引先の様子	・期待以上の貨物の増加もみられず、例年どおりの状況にある。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物の建築はいずれも低調なまま推移している。首都圏や主要都市においてはマンション価格の高騰など、景気は回復傾向にあるようだが、地方都市においては全国的な景気回復が波及するどころか、逆に落ち込んでいる。	
	司法書士	取引先の様子	・資材価格や工賃などの値上げといった要因により、マンションの販売価格が上昇しており、取引の動きが鈍い。給与が上がっていないにもかかわらず、販売価格が大都市並みに上昇しているため、手が出ない状況となっており、景気回復の動きがみられない。	
	コピーサービス業（従業員）	取引先の様子	・期末のため、客が多く、例年並みの受注量となっている。ただ、客の様子をみるとお金をかけるところの傾向が変わってきている。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・依然として売上の前年割れの状態が続いている。	
やや悪くなっている	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・高額商材の動きが若干鈍くなっている。住宅関連の需要も低調になりつつある。	
	通信業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の様子として、投資に対する慎重姿勢や価格への敏感さなど、景気の先行きに対して神経質となっている様子が以前にも増してみられる。	
	金融業（従業員）	取引先の様子	・マイナス金利導入後の金融資本市場の動向によって、先行きへの不透明感が増しており、家計や企業の消費、投資が慎重になっている。特に実質賃金が伸びていない家計においては消費の節約志向がより強くなっている。	
	司法書士	取引先の様子	・例年、春先は工事の着工などに伴う土地の売買が多くなる時期であるが、今年は例年に比べて取引量が少ない。	
	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・年度末に向けて受注量が減っており、今までにあまり経験したことがないような動きがみられる。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・ほぼすべての取扱商材の売上が低迷している。客先の1つである鉄骨加工業者では今年最低の加工量に終わったとのことである。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連 (北海道)	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年から15.3%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。月間有効求人数は前年から5.8%の増加となり、7か月連続で前年を上回った。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・中途採用の求人ニーズは引き続き底堅く推移している。ただ、短期や単純作業に対する企業の派遣ニーズが堅調に推移している一方で、フルタイムで働く事務などの派遣ニーズが弱含みとなっており、企業の業績に陰りが出てきているようにもみえる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・正規や非正規、業種や職種を問わず、総体的に求職者数が減少しており、そのことが求人件数を押し上げている状況にある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・中小企業での新卒採用が厳しくなっているため、中途採用が増えている。人材確保のため、未経験者を積極採用する動きも活発化している。また、年度替わりの時期の割に倒産や廃業といったネガティブな話もあまり聞こえてこない。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・観光業や外食産業は活気があるが、求人はパートなどの非正規が中心となっている。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が73か月連続で前年を上回り、月間有効求職者数が52か月連続で前年を下回っているものの、ここ3か月の月間有効求人数の前年からの伸び率をみると、12月が7.5%、1月が5.1%、2月が2.3%と縮小してきている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・12月から2月にかけての新規求職者数が前年から2.3%減少し、有効求職者数は前年から4.3%減少している。一方、有効求人倍率は過去最高を更新する1.04倍となった。
	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・3月1日から企業の採用活動が活発になっており、採用担当者の来校がかなり増えている。今まで中途採用しかしてこなかった企業が新卒を採る動きも多くみられる。長期的に従業員の年齢構成のバランスを取ろうとする動きもみられ、企業の体力が持ち直していることがうかがえる。一方、新卒採用予定人数を減らしている企業も多く、全体的な景気は横ばいで推移している。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人広告の増加傾向に陰りがみられ始めている。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上が前年から5%強落ち込んだ。前々年からは15%弱減少している。上位10業種のうち前年を上回ったのは派遣、環境衛生のみで、そのほかの業種は軒並み10~20%の減少となった。
悪くなっている	-	-	-